

## 【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の歴史上人物
3	資料名	恩納ナビー 万座毛 恩納ナベ歌碑
4	内容分類	郷土・歴史／観光・交通／自然・景観
5	索引語	沖縄、歴史、恩納ナビー、琉歌、万座毛、歌碑
6	説明	<p>恩納ナビー(生没年不詳)は18世紀に農民として恩納村間切りで生まれ、琉歌の才能に満ち溢れた琉球王国時代の女流歌人である。自由で真つごな恩納ナビーの琉歌は多くの人々の共感を生み、現在も愛され歌い繋がれている。(恩納ナビーは恩納ナベとも表記される。)</p> <p>生誕地である恩納村では、恩納ナビーを後世に語り継ぐことを目的に村の象徴とし、村を琉歌の里として観光資源・教育資源として活かしている。恩納ナビーの生誕の地の付近には、恩納番所跡や恩納松下の碑などがあり琉歌にまつわる史跡散策ができる。</p> <p>恩納ナビーの生誕の地の付近から1キロ圏内に万座毛(まんざもう)がある。万座毛があるのは沖縄海岸国定公園区域内で、琉球石灰岩の断崖から東シナ海が一望できる。波の浸食により自然の力で象の鼻に似た造形の岩が特徴である。1726年に琉球国王である尚敬王が万座毛を訪れ、「万人を座らせたるに足る」と称揚をしたことが命名の由来と伝えられている。</p> <p>◇恩納ナビーは琉球国王が万座毛を訪れた際に詠んだとされる歌 (琉歌)波ぬ声ん止まり 風ぬ声ん止まり 首里天加那志 美御幾拝ま (意味)波の音も止まれ。風の音も止まれ。国王様の芳しいお顔を拝みましょう。</p> <p>万座毛は総事業費19億円を投じ、2020年10月2日に土産品や飲食店、展望台デッキを備えた新集客施設が建てられ「万座毛周辺活性化施設」の名称でオープンした。以前は万座毛の駐車場脇にひっそりとあった恩納ナビーの歌碑は、現在、万座毛へのエントランスに移され、万座毛を訪れる観光客を迎えている。</p> <p>那覇空港から万座毛まで沖縄自動車道を利用して所要時間約1時間、屋嘉インターチェンジから約7キロで到着する。駐車場は乗用車合計315台、大型バス13台、二輪者24台と大きく改善されており、恩納村の観光拠点として生まれ変わった。エントランス手前にはパネルによる琉歌の展示もあり、琉歌の里として恩納ナビーの認知度を高めることが期待できる。</p> <p>万座毛の断崖に立つと、季節や天候により万座毛の様々な変化を見ることができる。晴れ晴れとし澄み切った青い空と水平線の景色、じりじりと太陽が照らす真夏を感じる景色、日が落ちる前の黄昏の景色、特に極寒の冬には怒濤のごとく絶壁を打ち砕くような凄まじい勢いの激しい風の中、音を立てて、うねりを打つ白波は圧巻である。大胆かつ細心である恩納ナビーの琉歌に浸りながら、その時々</p>

		の環境条件で万座毛を堪能することができる。
7	形式	静止画
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	撮影日：2021/12/25
10	地域・場所	沖縄県恩納村恩納
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2021/12/25
16	登録者	前城一弘
17	ファクトデータ	circd0913-0120.jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	*特色	<p>【琉歌】</p> <p>沖縄諸島・奄美諸島で謡われている叙情的な内容を主とする短詞形歌謡。もとはウタといわれ、17世紀以降、薩摩の琉球入りを機に大和の文芸が受容されはじめ、区別するために三味線楽器を伴う琉歌が生まれた。</p> <p>狭義には八八八六の音韻律を持つ短詞形を意味するが、広義にはその他に八八八... 六音を基本的な音数律とする長歌・七五調の口説・つらね・木遣り・和歌風の七五や七七（上句）と基調律である八六（下句）を折中した仲風もさす。</p> <p>起源は外来の和歌・小唄を母体とする説と南東の歌掛け・沖縄古謡オモロを母体とする内在発生説がある。</p> <p>琉歌は恋歌・四季歌・祝歌・教訓歌・疱瘡歌など多様な内容を持ち、最も多いのは恋歌である。詠人も、老若男女を問わず、国王をはじめ高級官吏から遊女、農民に至るまで幅広い。琉球王国時代の歴史に残る二大女流歌人として、吉屋チルーと恩納ナビーは名高く、現在も語り継がれている。</p> <p>（引用：琉球大学，琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ，URL：<a href="https://shimuchi.lib.u-ryukyuu.ac.jp/collection/miyara/mi04801">https://shimuchi.lib.u-ryukyuu.ac.jp/collection/miyara/mi04801</a>，[アクセス 2021/12/25]）</p> <p>【沖縄方言が消滅危機言語】</p> <p>2009年、国連教育科学文化機関（ユネスコ）は日本国内の消滅危機言語</p>

		<p>として8言語を限定しており、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語（どうなんむぬい）特定された。</p> <p>沖縄の中でも八重山語は多種類でスマムニ、ヤイムニとよばれる。石垣島方言、竹富島方言（テドゥンムニ）、黒島方言、小浜島方言、新城島方言、西表島方言（バシマムニ）、鳩間島方言、波照間方言と8種に及ぶ。</p> <p>沖縄は、大戦後、歴史的・政治的な政策から厳しい共通語政策が行われた結果、話者人口の減少や若者の都会へ進出にともない、世代間および地域間での文化継承が課題として挙げられるようになり、共通語を優先させたことが、長い年月を経て今、課題として直面している。</p> <p>沖縄県では2006年に「しまくとうばの日」の普及・継承を図る狙いで毎年9月18日を「しまくとうばの日」と条例で定め、2013年から次世代へ伝承する目的で「しまくとうば普及推進計画」を取り決め実施している。</p> <p><b>【恩納ナビーの琉歌 ～恩納松下の碑～】</b></p> <p>住所：〒904-0411 沖縄県国頭郡恩納村恩納 2571 番所跡</p> <p>琉球王府は中国からの使者に風紀が乱れていると思われないよう、使者が北部視察で宿泊予定の恩納番所の松の木の前で、若い男女が夜間に歌や三味線に合わせて楽しむ毛遊びの禁止を命ずる札を立てた。それを知った恩納ナビーは次のような歌を詠んだとされる。この歌は後に王府の役人により歌い継がれることになり、農民と役人と立場は違えど同じ人間として心に刺さる琉歌である。</p> <p>（琉歌）恩納松下に禁止の碑の立ちゆし恋しのぶまでの禁止やないさめ  （意味）恩納番所の松の木の下に禁止の札が立てられたが、恋をすることまで禁ずるようなことはあるまい。</p> <p><b>【恩納ナビーの琉歌】</b></p> <p>恩納ナビーの琉歌は壮大で気持ちを全面にさらけ出す内容が多く、愛する人を想い、これ以上に表すことのできない程の強い熱い心を琉歌で形にしている。恩納松下の碑からも恩納岳を見ることができる。</p> <p>（琉歌）恩納岳あがた里が生まれ島森ん押し除きていくがたなさな  （意味）恩納岳の向こう側が愛する貴方の生まれた村。森（恩納岳）も押しかけて引き寄せたい。</p>
2 1	*活用支援	
2 2	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習
2 3	*改善結果	
2 4	*処理プロセス	
2 5	機関外リンク情報	
2 6	目標	
2 7	紹介	